

秋の彼岸によせて

平成二十七年九月 大乘寺 長老 岡 光俊

今日は、一番身近な、墓参ぼさんについてご案内申し上げます。

墓参ぼさんのときは、線香、ローソク、寺務所で水塔婆みずとうぼ、柁しきみまたは柁むかきを求め、水を持って、お墓に向かいます。

近年、水塔婆供養みずとうぼくようをするかたが少なくなってきました。これは、勿体ないことです。

以前は、生まれたばかりのお子さまのお名前も書かれて、水塔婆みずとうぼ供養くようをされたものです。ご先祖さまがたへの、最初のご挨拶となります。

水塔婆みずとうぼが数多く頂かれています。お墓は、それだけ多くの子孫に大切に思っていて頂いている表れです。水塔婆みずとうぼを頂かれたご先祖さまも嬉しく誇らしく見えるものです。心を表す大切な感謝の表れです。

水塔婆みずとうぼは、中学生や高校生でもさせて頂けます。ご先祖さまのために、お爺ちゃん、お婆ちゃんのためにと、大切なお小遣いのなかからご自身の名前の書かれた水塔婆みずとうぼをご先祖さまに手向ける心、その心をお育て頂く機会にして頂き、先人の英知を再び大きく広げて頂き、親、ご先祖さまを思う心を身につけて頂きたく願わせて頂いております。

そして、小さなときから、色々な不思議な体験を味わって頂くことです。

昔から、ご先祖さまのために使わせて頂いたお金は、必ずそのまま帰ってくるといういい伝えがございます。そのような体験を小さなときからさせて頂くと、お金の使い方も、自分のためではなく、親、ご先祖さまのために使うことが大切との思いで使える心が養えます。自分の背丈に合ったお金の使いかた、分相應の使い方も身に

つきます。

このように、小さなときから、子供の心の底に、お金の正しい使いかた、生きる使いかたを、ご先祖さまを通してお教え頂けるよい機会になればと願います。

戦後七十年。神の国である我が国が、負けるはずがないと信じて戦い、すべてを犠牲にしてきた方々は、戦争に負けたことから、神を信じなくなったと聞きます。

そのような混乱のときに、信じられるものが目の前に表れました。お金です。復興、経済成長と共に、誰もがお金を目指して勉強し、働き、幸せはお金がもたらしてくれるものと信じてきました。

そして今、長年ベールに包まれていた戦争の経緯が明らかとなり、人災であったことが明白となりました。

戦争に神々は一切関わっておられなかったこと、暴走した軍部が、神の名を、純真な国民の信仰を、軍部の意志遂行を決定的なものとするために利用したことも明らかとなりました。

人間は野望を持つと、尊い神々をも、下男のように利用する恐ろしい生き物に変貌することを忘れてはならないでしょう。

お金を信じてきた時代、しかし今や世界は日々、国々の情勢をスレートに受ける社会となり、複雑な変化についていけるか、そのような時代となっています。

長期安定形職種などないことに多くの若者も気づき始めています。同じ仕事で、生活を守ることが困難な時代となってきたということです。このことは働く者にとって今後、大きな不安材料となっていくでしょう。

職場の安定がなくなり、収入の安定がなくなり、価値観の多様化

に伴い思考回路の共通項が分散し、孤立化現象が加速化しています。精神的疾病患者の増大です。年齢も保育園児から高齢者まで広がっています。

これからの時代、仕事、お金、健康、家族、友人、そこに安定材料はあるのでしょうか。

水塔婆は佛塔を表します。昔、將軍や貴族のお后が亡くなられると、そのかたを供養するためにお寺を建立され、長年に渡り法要されたことから、塔婆一枚が佛塔建立に同じ意味を持つといわれる程、尊く勿体ないものです。

秋の彼岸、ご先祖さまの方々に尊き佛塔をとの想いを込め、子孫の心の成長、安定の元、ご先祖さま共々の生活をより実践させて頂く機会として、水塔婆供養を始めさせて頂きましょう。

そしてご先祖さまのお力をお借りし、今後の複雑で多様化する社会を乗り切って頂きたいものです。